

# 滋賀・街道遺跡<sup>かいどう</sup>

- 1 所在地 滋賀県野洲市大篠原字出口
- 2 調査期間 二〇〇六年(平18)一〇月～一一月
- 3 発掘機関 野洲市教育委員会
- 4 調査担当者 杉本源造
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(近江八幡)

街道遺跡は、東山道沿いの中世集落で、東側の山地からの小河川による扇状地性低地に立地する。現在までに二六カ所の発掘調査に

より一二～一五世紀頃の屋敷地、鍛冶工房などの遺構が検出され、箸や桶などの木製品が多く出土した。

今回の発掘調査は第二次にあたり、市道拡幅工事に伴うものである。幅三メートル長さ一八〇メートルの細長い調査区を設定し、柱列や溝・土

壙・流路などの遺構を検出した。遺物は箸、ツチノコ、題籤軸、絵付け塗小皿、蓋未製品、片材、削り屑、銚、鑿などが出土しており、木製品加工場の存在が推定される。木簡は、調査区ほぼ中央の幅約五・八メートル深さ約四七センチメートルの自然流路SD四〇六で一三世紀後半の黒色土器椀・土師皿・木片・獣骨などとともに一点が出土した。

## 8 木簡の釈文・内容

### (1) ・「符録」

・「中」

(156)×35×4 019

上端部は山形に整形する。下部は欠失。表面には呪符木簡独特の文字が書かれ、裏面には肉眼で「中」と読める文字が確認できる。

### 9 関係文献

野洲市教育委員会『平成一八年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書二』(二〇〇八年)

(杉本源造)

